

## ～摘果、病害虫防除は状況を確認して実施！～

佐渡農業普及指導センター羽茂分室

### 1 生育状況

7月25日の生育調査では、果実肥大は「平核無」が平年比107%、「刀根早生」105%と大玉傾向です。葉色SPAD値は両品種とも平年を下回っているものの、6月下旬以降は適正～濃いと考えられます。梅雨期間中の生理落果はあまりみられなく、母枝当たり着果数は多い状況です。

表 南部おけさ柿生育調査結果

品種	調査年	果実			葉色(SPAD値)		
		ヨコ径(mm)			6/25	7/10	7/25
		06/25	07/10	07/25			
刀根早生 (3園平均)	本年	24.1	36.9	49.4	50.9	54.1	56.5
	前年	22.7	39.6	50.8	51.2	55.2	56.6
	平年	21.9	35.4	47.2	54.3	57.6	59.3
平核無 (6園平均)	本年	24.0	36.3	50.1	50.1	54.3	56.6
	前年	22.3	39.5	50.9	51.1	55.3	57.4
	平年	21.6	34.9	46.9	52.4	55.8	58.0

### 2 栽培管理作業について

#### (1) 仕上げ摘果

- ・梅雨明けは平年より2日早い7月21日ごろでした。
- ・仕上げ摘果をする際は、果実を良く観察し、葉果比が最終的に12～15枚/果程度となるよう奇形果や変形果、傷果、小玉果、日焼け果、果頂部くぼみ果、遅れ花の着果等を落としましょう。**最近暑い日が続く、今後、特に日焼け果の発生が懸念されますので留意して摘果するようにしましょう。**

#### (2) 新梢管理

- ・梅雨明け後の日照による樹体や果実の日焼け防止のために日除けとなる徒長枝を、**葉果比確保や側枝更新のためには弱めの枝や横向きの弱い枝を残しましょう。**

#### (3) 病害虫防除

- ・カメムシ類は、7月第2半旬からクサギカメムシを中心に誘殺数が増加しています。防除間隔に留意して計画的に防除しましょう。
- ・ハスモンヨトウは7月第1半旬の誘殺数は平年より多く、その後も多い状況が続いています。対策として卵塊は発見次第除去してください。**各自園地を確認し、ふ化直後～若齢幼虫が多くみられる場合は、ボルドー体系は防除暦5回目と6回目を、無ボルドー体系は臨時(8月上旬)と6回目を入れ替えての散布を検討して下さい。**
- ・うどんこ病、すす点病が散見されます。防除間隔が開きすぎないように留意しましょう。



#### (4) 農作業事故防止

- ・乗用機械、刈払い機等の機械を用いたり、脚立で昇降する作業等は、特に注意しましょう。
- ・気温の高い日が多くなり、防除や除草等、農作業時の事故が懸念されます。なるべく一人作業にならないよう周囲の方々と協力して行いましょう。
- ・熱中症にならないよう水分補給をしっかりと行い、できるだけ涼しい朝晩に作業を行いましょう。但し、暗くなり過ぎての作業も危険なので注意しましょう。